社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2008年2月号

［8面］

【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

就職課スタッフは「就職活動応援団」

「就職に強い」と高い評価の専修大学では、生田・神田あわせて20人の経験豊かなスタッフが、年間8500件の就職相談に応じています。

志望企業の内定を得た4年次生がサポートする「学生就職アドバイザー」や卒業生が応援する「学内OB・OG訪問」、マスコミ業界への就職を支援する「マスコミ講座」など、年間を通じて充実したプログラムで、「希望の就職」を応援します。

「学生と一緒に」。それが就職課スタッフのモットーです。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2008年2月号

[8面]

【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

内定への道＜4＞

面接指南！

いよいよ、採用選考も本番！ 今月は、どんな企業も100%行う「面接」のポイントだ。

【ポイント1】結論は最初に、内容は簡潔に

企業に入社すると必ず上司に報告する場面がある。延々と話をした後、「結局、問題は何だね？」と逆に質問される。そんなことを皆さんの先輩は数多く経験しているだろう。詳しく伝えようとするあまり本筋とは異なることに重点が置かれ、一番伝えなければならないことが後回しにされているからだ。面接は時間が限られている。まず、結論。結論を伝えることで相手も話を聞く態勢になる。そして、内容は簡潔に。指定がなければ1分以内を目安にする。

【ポイント2】文章は短く

一つの文章にいろいろなことが含まれていると、聞き手はすべてをとらえることができない。読点（、）ではなく、句点（。）を活用しよう。「大学1年生から学習塾で講師のアルバイトをしていますが、最初は生徒を振り向かせることは難しく、授業に集中してくれなかったため…」という話は「大学1年生から学習塾で講師のアルバイトをしています。最初は生徒を振り向かせることが難しかったです。…」に。一つの文章には一つの内容を盛り込むのが原則だ。長くなればなるほどリズムはなくなる。良い会話には、テンポの良いリズムがある。

【ポイント3】声に出して練習する

面接がエントリーシートや履歴書と決定的に異なるのは、「会話」だということ。用意してきた内容を伝えるだけでは相手の心は動かない。自分の話し方が相手の心を動かしているか、実際に声に出して確認してみよう。最も効果的な練習は、第三者（家族、友人、就職課など）にコメントをもらうことだ。数多くの指摘から自分の考えもまとまってくる。まとまると、相手にとってもわかりやすい内容になる。話す内容が自分のモノになるまで、繰り返し声に出そう。

参考図書：
『相手に「伝わる」話し方』（池上彰著＝講談社現代新書） 元NHK記者の著者が経験を基に話し方のポイントを伝える。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2008年2月号

[8面]

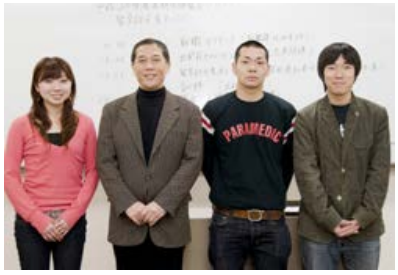
【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

08年度長期交換留学生（第1期）に3人

2008年度長期交換留学プログラム第1期の派遣留学生に以下の3人が決まり、1月23日、生田キャンパスで大林守国際交流センター長から留学許可書が交付された。氏名と留学先は以下の通り＝敬称略。

〔英語圏以外の外国語圏〕
リュミエール・リヨン第2大学（フランス）
▽高梨徹（法2） ▽西川厚介（文2）

〔英語圏〕
ウーロンゴン大学（オーストラリア）
和田博子（文2）



▲大林センター長をはさんで左から和田さん、西川さん、高梨さん

※長期交換留学奨学生制度：
国際交流協定校に1年間留学する学生に、学費の一部、または全額を援助。毎年、十数人が派遣される。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2008年2月号

[8面]

【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

冬期日本語プログラム参加のチリ人留学生 マリア・マルケスさん

「Jポップスから日本語に興味を持ちました」

国際交流協定校などの学生が参加する冬期日本語・日本事情プログラムが1月9日から始まった。31人が、日本語や日本の文化を学ぶプログラムに励んでいる（3月14日まで開講）。留学生との交流で、語学力を向上させる専大生も多い。

参加者のひとりマリア・ホセ・マルケスさんに話を聞いた。マルケスさんは南米チリのサンチャゴ・デ・チリ大学の4年次生。

◇

▲生田キャンパスでのプログラム生の歓迎会

チリの大学では、言語学と翻訳（日本語と英語）を専門に勉強しています。チリにとって日本は、地球の裏側に位置する国。そんな遠い国の言語を学びたいと思ったのは、リズミカルな Jポップスを聴いてからです。ラルクアンシエル、SMAP、平井堅、浜崎あゆみ、宇多田ヒカル……。チリではJポップスが大人気。そして日本のアニメも…。

▲マルケスさん

私の国ではよく魚を食べますから、すし、天ぷらなど日本の食べ物も大好きです。日本は独自の文化を持っており、国民がよくまとまっていると感じました。

日本語、中でも漢字は興味深いですね。一つひとつの文字に意味があり、そこが分かるととても面白い。2カ月間の留学で漢字をたくさん覚え、日本語をレベルアップさせたいです。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2008年2月号

［8面］

≪New Ground － 新しい見方＜20＞≫

友達をつくろう

関口沙知子（文1・ジャーナリズム研究会）

一人暮らしで直面することは何だろうか。それは、一人で生きていかなくてはいけないという現実だ。実家で暮らしていたときは、誰か一人は家族が必ず家にいた。しかし今は帰宅しても誰もいない。もちろん待っている人も、病気のときに看病してくれる人も、話を聞いてくれる人もいない。常に部屋には自分一人。精神的にも不安定になり、多くの一人暮らしの人が孤独にとらわれやすくなる。

一人暮らしの大学生の孤独について私が強く意識したのは、同じく一人暮らしをしている友達との何気ない会話だった。その友達が言った「学校に行かないと誰とも話をしない」という一言で、私は改めて気づかされた。私も同じ立場なので、こういう気持ちはよく分かる。その時、この一言が大学生の一人暮らしをすべて物語っているのではないかと感じた。学生は大学を中心にして日々を過ごしている。アルバイトなどの学外の活動をしていない学生は、大学に行かなければ人と接触する機会は少なくなってしまう。さらに、大学は中学・高校とは違い、決まったクラスもなければグループをつくれと言われることもほとんどない。すなわち、誰一人として知り合いがいないのならば、友達をつくる、サークルに入るなどのなんらかの行動を取らない限り、人と話すことは一切ない。そこには完全な孤独が待っているのだ。

このように一人暮らしの大学生は、さまざまな状況と条件によって常に孤独にさいなまれる。それに耐えられないのならば、友達をつくることが必要だ。友達と一緒にいる時間は、特に大切にしなくてはならない。その間だけは孤独から逃れられるのだから。そして友達をつくる機会は絶対に逃すべきではない。機会は少ないかもしれないが、積極的に行動を起こしていこう。

Copyright(C) 2008 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ニュース専修 ウェブ版
2008年2月号
[8面]

【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

サークル活動のススメ

スポーツや研究、モノづくり、芸術の道を極めるなど、専修大学には200を超えるさまざまなクラブ・サークルがあります。

貴重な“4年間”をさらに輝かせるために。積極的に参加し、素晴らしい仲間と思い出をつくってください。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2008年2月号

［8面］

≪マンガ≫

（漫画研究同好会）

Copyright(C) 2008 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.